

平成22年3月期 決算説明資料

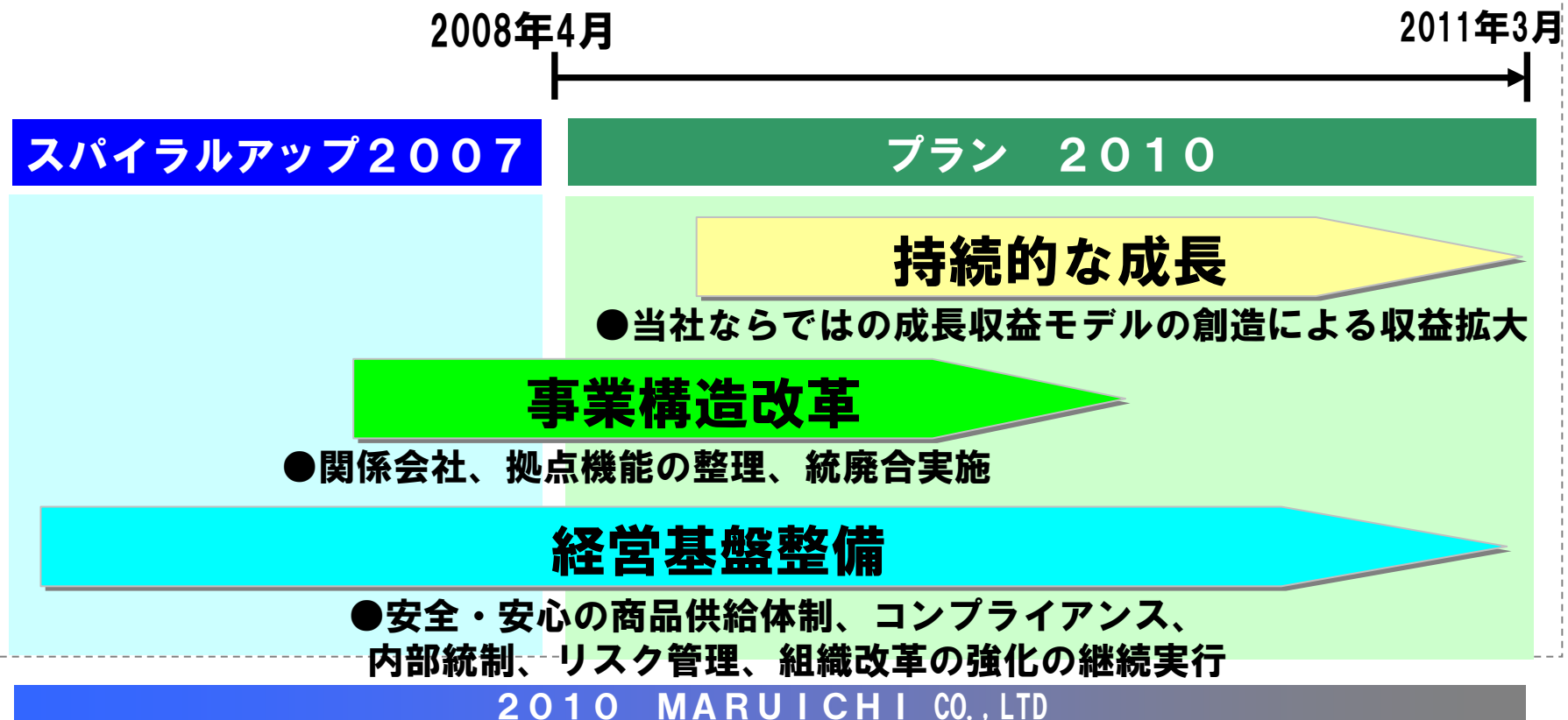


中期経営計画「プラン2010」について(1)



「プラン2010」を2009.3月期からスタート。2011.3月期(今期)総仕上へ

- ・前中期経営計画「スパイラルアップ2007」における、安全・安心の供給体制整備やコンプライアンス、内部統制等の経営基盤整備の強化を継続
- ・拠点の機能統廃合といった事業構造改革をベースとしつつ、持続的な成長ステージへと乗り移り、確かな成果を生み出すための計画として位置づけ



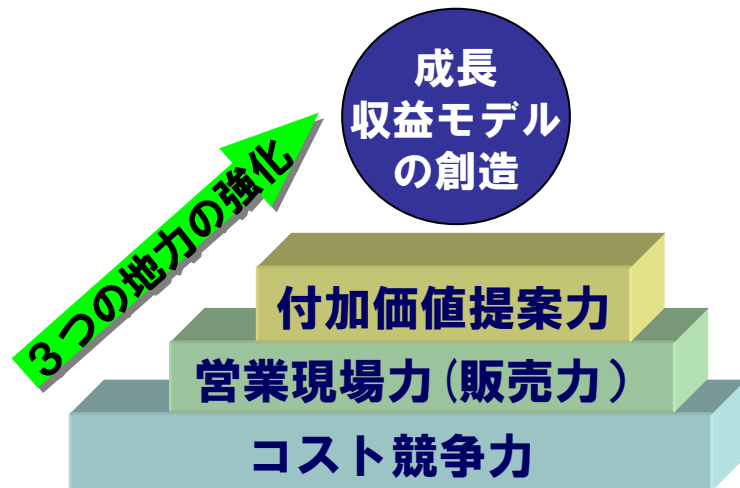
中期経営計画「プラン2010」について(2)



- ・顧客基点のリテールソリューションを基軸とした事業構造改革と成長収益モデルの創造
- ・連携と融合で組織の壁を越えて、新たな提供価値を創造

《3つの地力の強化》

強い営業力を作るための、
 「コスト競争力」
 「営業現場力（販売力）」
 「付加価値提案力」
 の3つの地力を強化する。



《SCM構築と新たな成長分野》

成長収益モデル構築のために、
 ①商品別のSCMを進化させる
 ②新規事業開発として、
 「メーカー型卸」「顧客ソリューション型（フードサービス）」「流通プラットフォーム型」の各成長収益モデルを確立



平成22年3月期 連結決算の概要



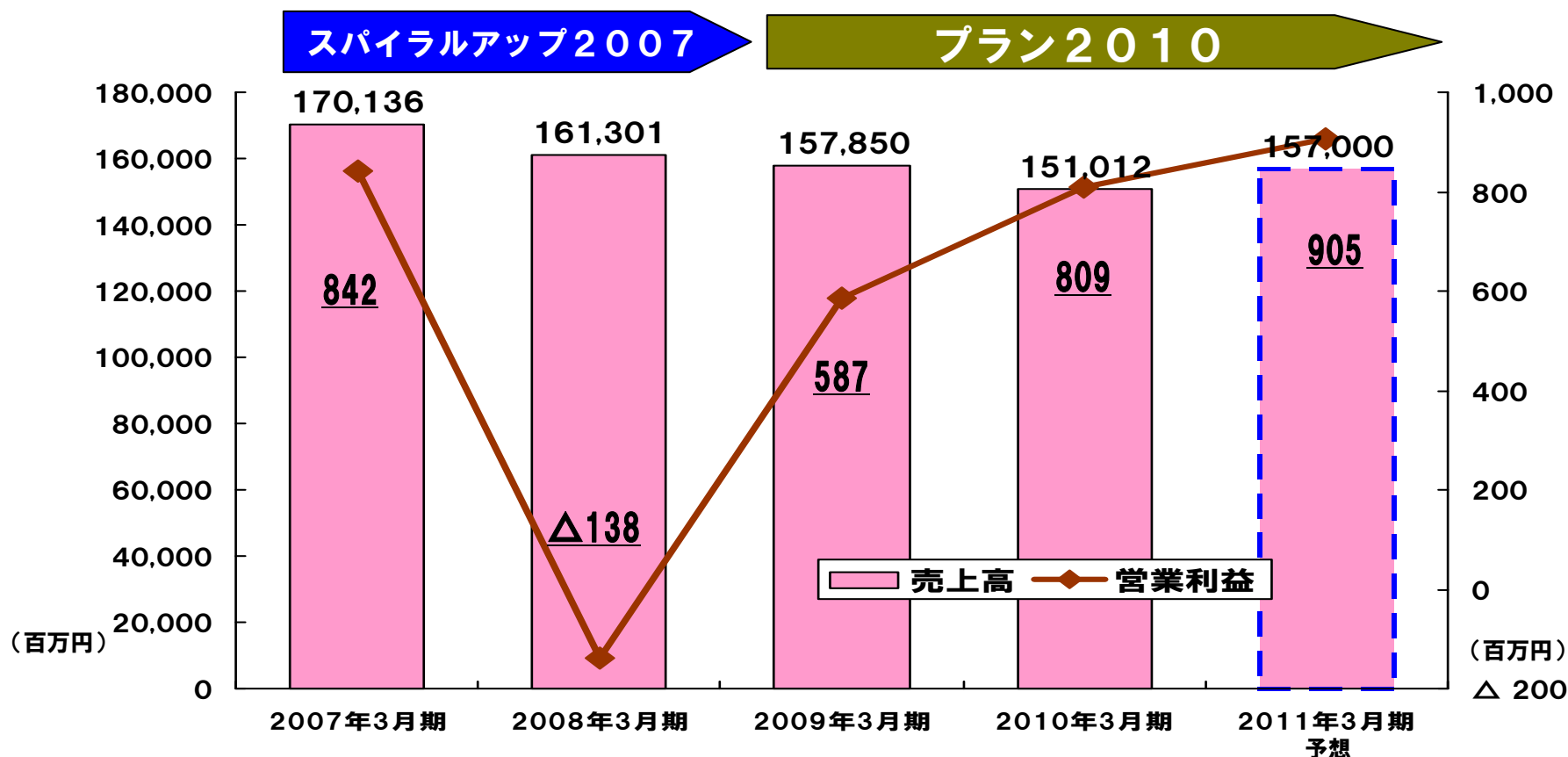
- ・売上高は、水産品を中心とした消費不振と単価下落等の影響により減収
- ・販売費及び一般管理費は、業務改善とIT投資による業務の効率化とコスト削減を推進
- ・営業利益および経常利益は、仕入集中化等の効率化によるコスト削減および業務改善の継続とIT活用による人件費、管理費の経費削減により大幅増益
- ・当期純利益は、前期、資産売却があり減益だが計画以上で推移

単位:百万円

	09年3月期 (第59期)	10年3月期 (第60期) 計画	10年3月期 (第60期) 実績	計画 増減率	前年 増減率
売上高	157,850	160,125	151,012	△5.7%	△4.3%
売上総利益	17,926	18,372	16,701	△9.1%	△6.8%
販売費及び一般管理費	17,339	17,751	15,892	△10.5%	△8.3%
営業利益	587	621	809	30.3%	37.8%
経常利益	942	962	1,170	21.7%	24.3%
当期純利益	653	575	632	10.1%	△3.1%

連結売上高及び営業利益の推移

- ・ 営業利益面では、業務改善とIT活用によるコスト削減により増益
- ・ 2010年3月期は、利益では中期経営計画「プラン2010」の目標を達成する見込み
- ・ 2011. 3月期は売上拡大に転じさせる



連結資産・負債の状況

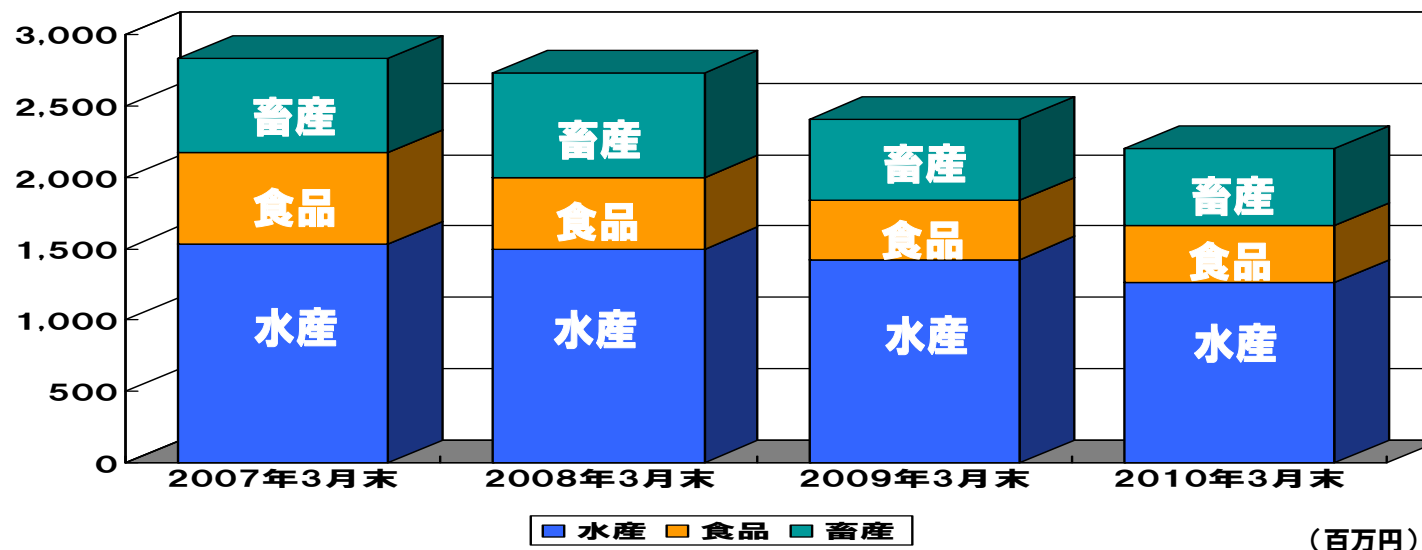
- ・総資産は、微増の340億円。流動資産は、売掛債権および商品が388百万円減少したが現預金が1,005百万円増加したことにより、502百万円増加
- ・固定資産は、減価償却および遊休資産売却等により減少、投資その他資産は、投資有価証券の評価等により増加した。負債は、賞与引当金減等により減少

(百万円)

	2007年 3月期末	2008年 3月期末	2009年 3月期末	2010年 3月期末
総資産	42,030	33,604	33,504	34,006
流動資産	24,241	17,299	17,752	18,402
有形・無形 固定資産	13,662	13,111	12,764	12,508
投資その他資産	4,127	3,192	2,986	3,096
流動負債	24,072	16,896	16,474	16,158
(有利子負債)	3,521	2,335	1,845	1,652
固定負債	1,999	1,491	1,507	1,620
株主資本	15,234	15,084	15,685	16,179
評価・換算差額等	67	64	△163	47

セグメント別在庫金額の推移

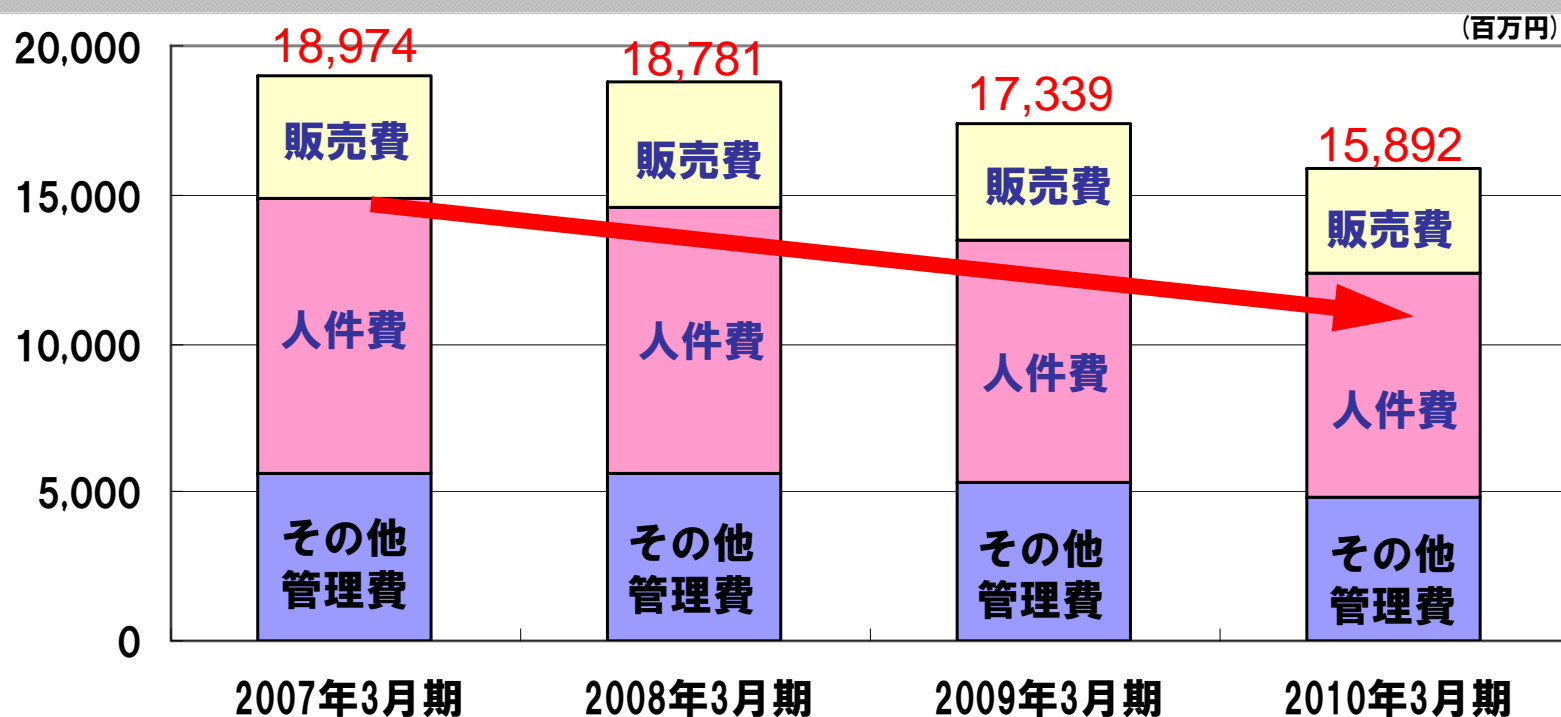
・在庫管理の仕組みづくりおよびマネジメント力の向上により、各セグメントにおいて在庫削減がすすみ、全社で206百万円削減



セグメント	2007年 3月期末	2008年 3月期末	2009年 3月期末 ①	2010年 3月期末 ②	増減 ②-①
水産	1,529	1,495	1,426	1,262	△164
食品	648	504	417	399	△18
畜産	660	729	567	543	△24
合計	2,838	2,729	2,410	2,204	△206

コスト削減の推移

- ・ 2008年3月期より事業構造改革を進め、2009年3月期からはコストカットや業務改善に取り組みコスト削減を推進
- ・ 2010年3月期は、コストカットに加え、IT投資による業務の効率化と業務効率化を推進



事業構造改革

コストカット・業務改善

IT投資による業務効率化

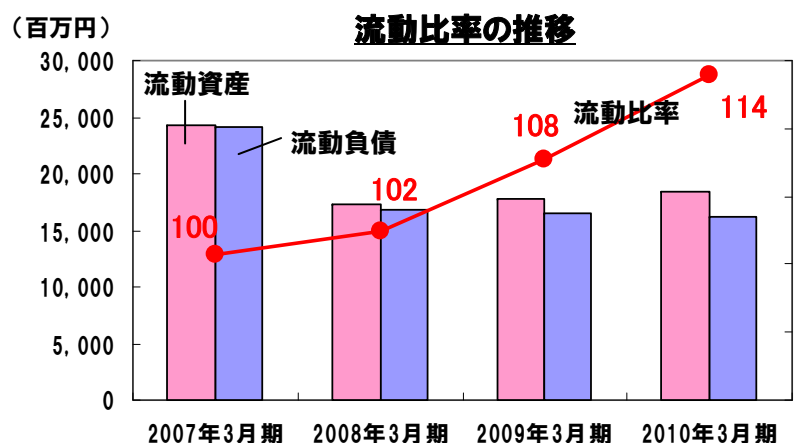
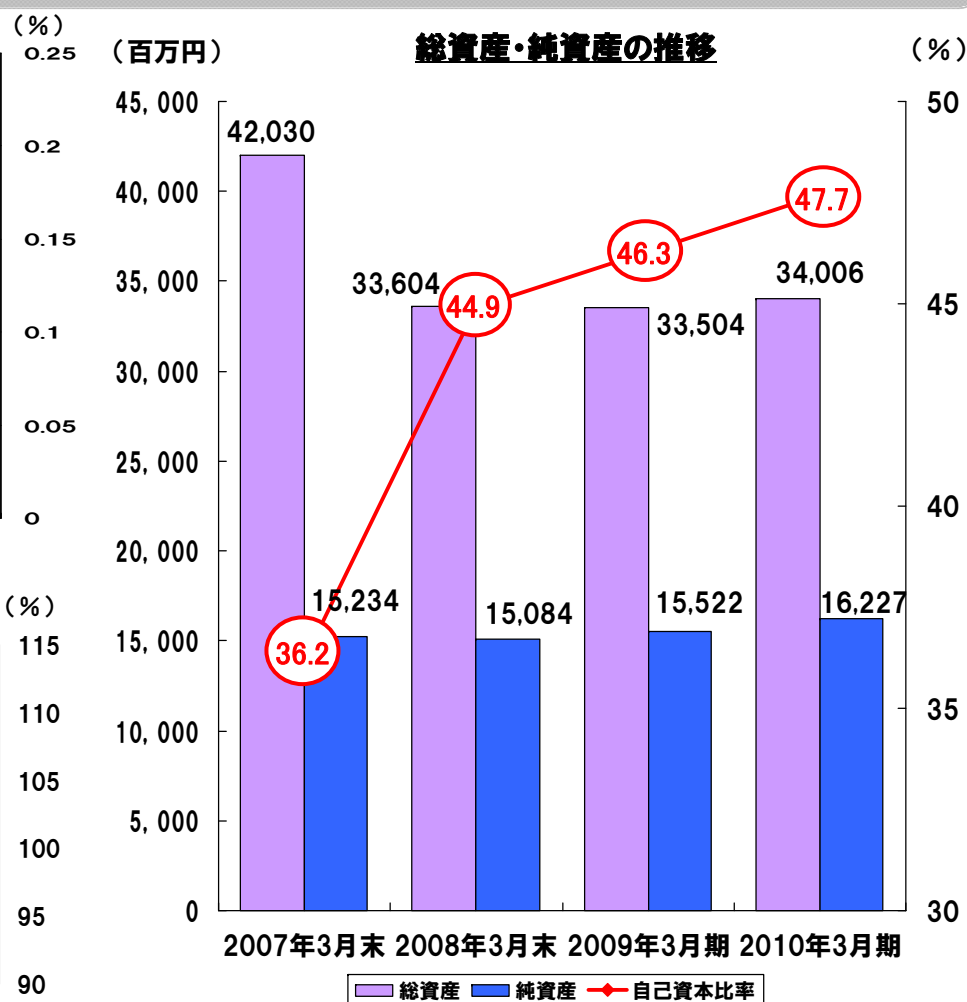
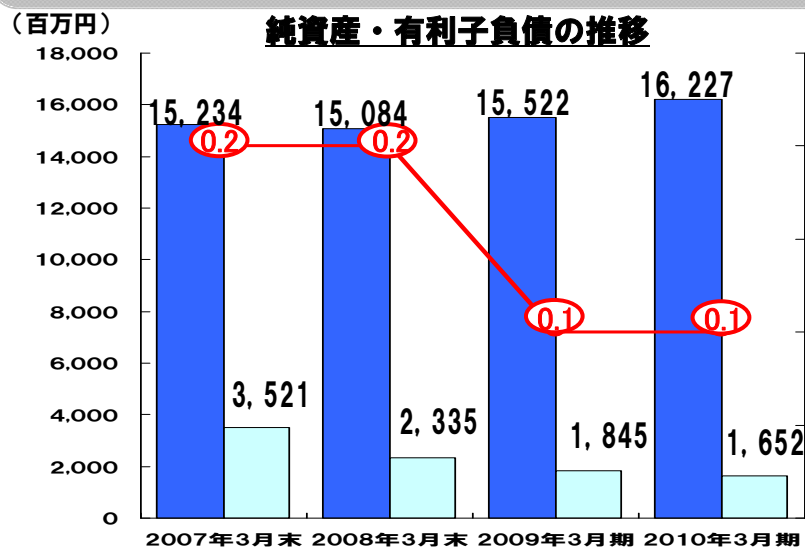
- ・在庫削減、与信管理の徹底でリスク管理とキャッシュフローの改善を図り、財務体質の強化を推進
- ・成長への投資可能な経営体質を構築

指標	2006. 3月期 (実績)	2007. 3月期 (実績)	2008. 3月期 (実績)	2009. 3月期 (実績)	2010. 3月期 (実績)
自己資本比率	39.70%	37.82%	45.08%	46.33%	47.72%
買掛支払日数	32.0 日	30.8 日	30.8 日	30.6 日	30.4 日
売掛回収日数	29.2 日	29.0 日	26.7 日	25.8 日	25.4 日
在庫回転日数	6.6 日	5.9 日	6.4 日	5.7 日	5.1 日
運転資金日数	▲3.8 日	▲4.1 日 ※	▲2.3 日	▲0.9 日	▲0.1 日

- ・運転資金日数は、買掛支払日数－売掛回収日数－在庫回転日数 により計算。
- ・プラスの場合は、運転資金に余裕が生まれる。

純資産と有利子負債の推移

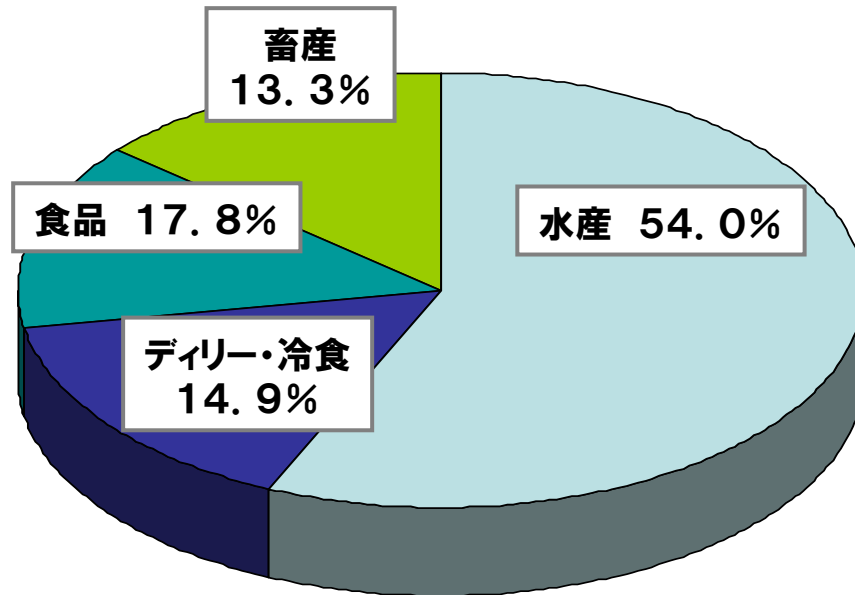
・引き続き有利子負債を圧縮した結果、有利子負債倍率は前年同様に0.1%となり、流動比率も114%に向上。また、利益増加により自己資本比率は47.7%に向上



商品別、エリア別売上高の状況（単体）



商品別売上高構成

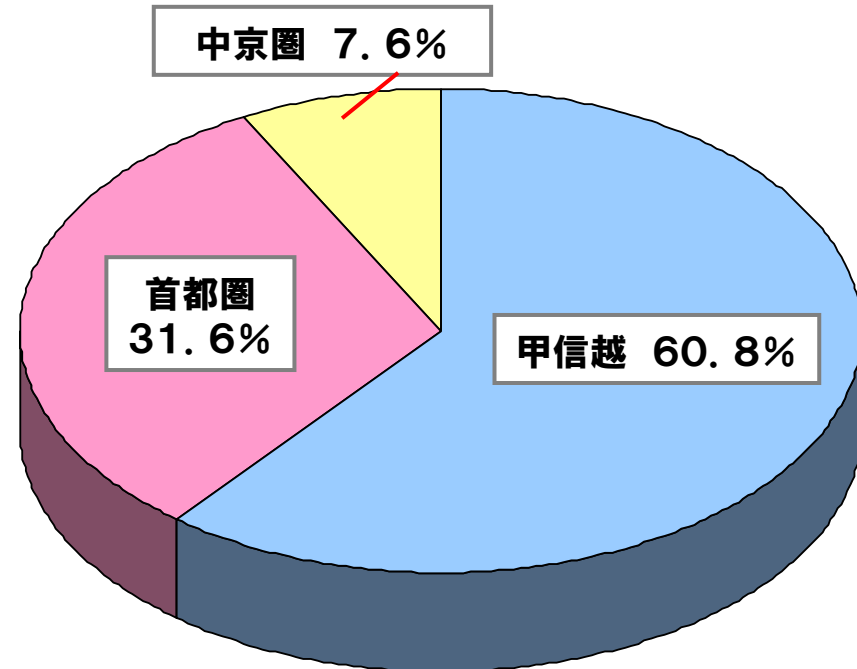


□ 水産 □ ディリー冷食 □ 食品 □ 畜産 □ その他

商品	売上高
水産	80,761
ディリー・冷食	22,229
食品	26,646
畜産	19,832
その他	53
合計	149,521

(百万円)

エリア別売上高構成



□ 甲信越 □ 首都圏 □ 中京圏

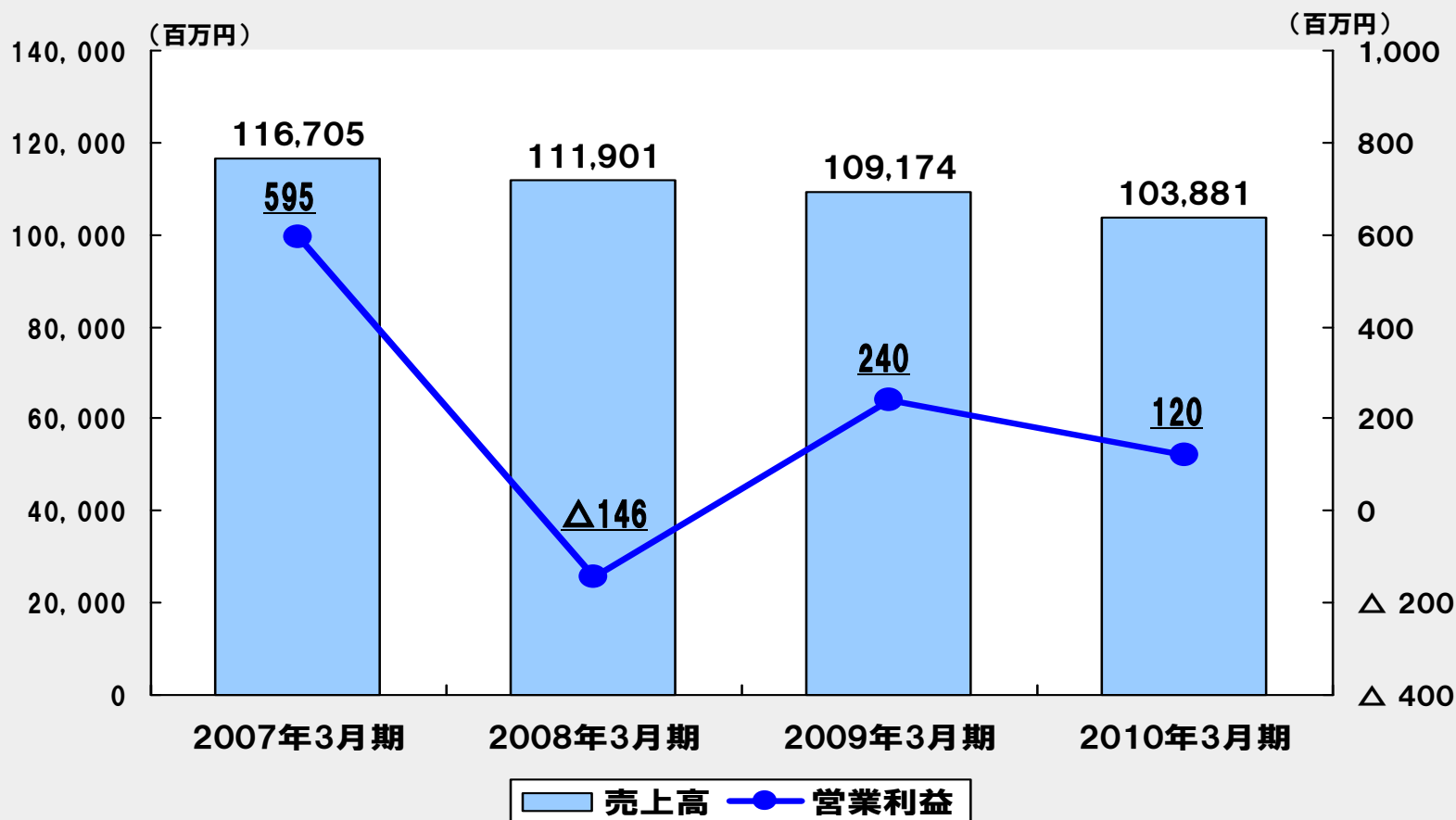
エリア	売上高
甲信越	90,903
首都圏	47,189
中京圏	11,429
合計	149,521

(百万円)

水産セグメントの売上高および営業利益の推移



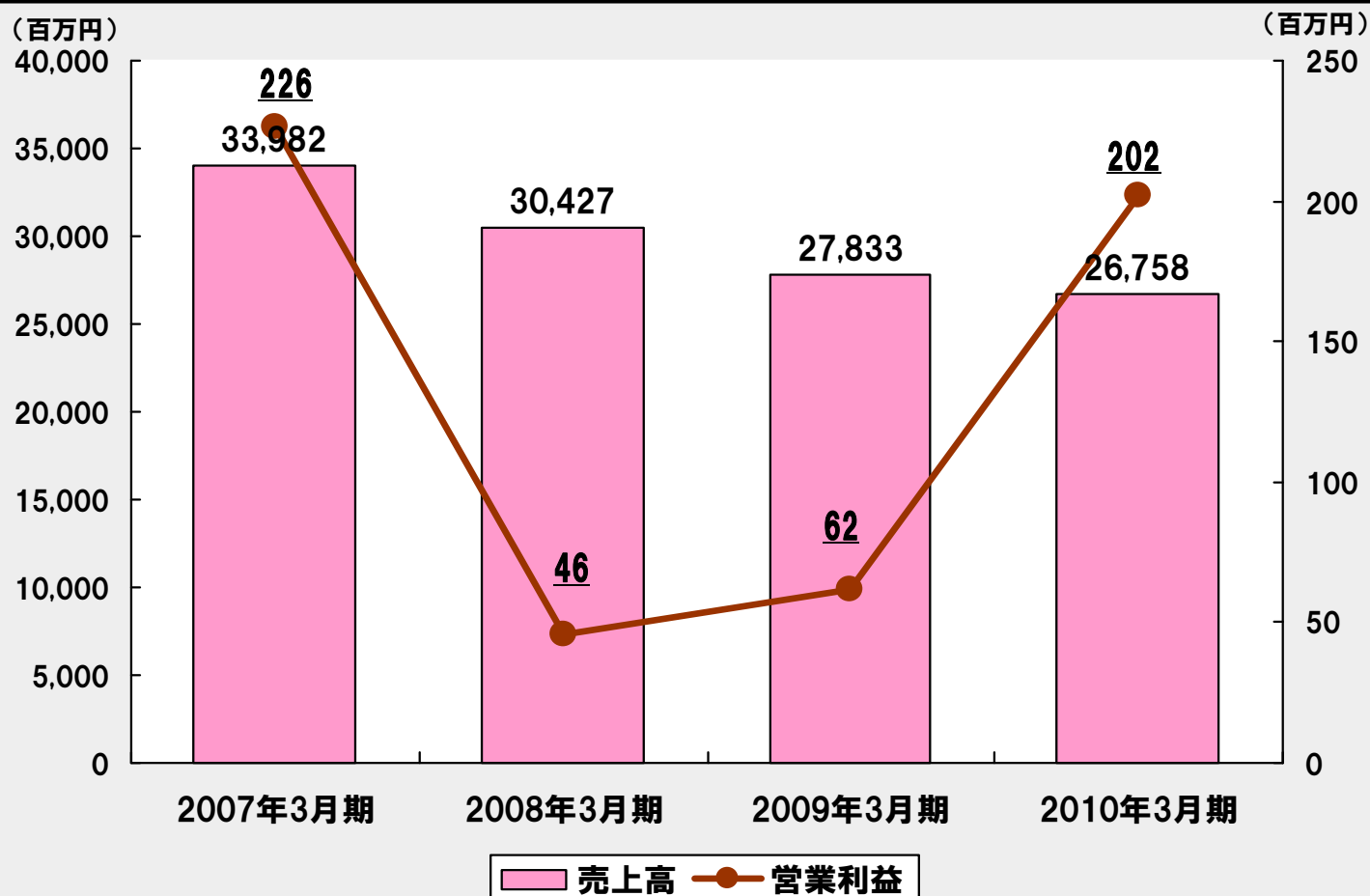
- ・ 値頃感のある大衆魚等は、数量ベースで前年を上回って推移したものの、魚価の大幅な低下と高級食材を中心とした消費不振により売上高は4.8%減
- ・ 利益面では、売上の減少と販売価格の低下により利益額が減少し、業務改善によりコスト削減は進めたものの減益



食品セグメントの売上高および営業利益の推移



- ・ 消費者の節約志向の高まりから内食関連商材の需要が喚起され、調味料を中心に堅調に推移したが、天候不順による夏物商材の伸び悩みと価格低下の影響を受け売上高は前期比3.9%減
- ・ 利益面では、前期の営業拠点間の機能再編によるコスト削減や本部マーチャンダイジング機能強化により、前期比大幅増



畜産セグメントの売上高および営業利益の推移



- ・「りんご和牛 信州牛」は首都圏を中心に評価され順調に推移したものの、豚肉は、全国的な在庫過剰による相場下落と低価格競争により、売上高は減少
- ・利益面は、SCMの推進による事業構造改革が進んだことから、大幅増加

